

# あなたの常識は非常識？

## 自然治癒力を最大限に生かす

# 湿潤療法



# 安全センター

[発行]  
 尼崎労働者安全衛生センター  
 [連絡先]  
 〒660-0802  
 尼崎市長洲中通 1-7-6  
 TEL・FAX 06-4950-6653

**明日への伝言**  
 アスベストからノンアスベスト社会へ  
 アスベスト対策の会 尼崎支部  
 あやまれ・つくなえ アスベスト  
 患者と家族の会 尼崎支部  
 尼崎労働者安全衛生センター  
 1,890円(当センター割引あり)

とは

二〇一五年二月十七日、安全と衛生の講演会「傷の処置は消毒・乾燥？それとも湿潤療法？」を開催しました。講師は京都通信病院外科の安藤善郎医師で新聞を見た芦屋市や神戸市など市外からの参加者も複数みられました(参加三九名)。

### 消毒・乾燥(ガーゼ)はNG

消毒すると細菌よりも弱い人間の細胞がダメージを受け、傷を深くしてしまいます。生きている細胞は乾燥すると死にます。乾かすと傷の治りを遅らせます。ガーゼは傷を治すための浸出液を吸取り、かつ乾燥させます。また傷口にくっつき、はがす時に新しくでき始めた表皮細胞も一緒にはがれます。治療の邪魔をしているのです。

### 治療経過をスライドで

「野生の動物はケガをしたら傷をなめて治します」と講師は言い、消毒せず水で洗い流し、傷を乾かさなないようにする。具体的には小さな擦り傷ややけどなら白色ワセリンを塗ったラップフィルムを当てるだけで数日で治るようです。

### 講師の安藤先生



講師には実際に治療した患者さんのやけどや傷などに対して湿潤療法を行った治療経過の写真をスライドで映しながら、非常に丁寧にお話しいただきました。

### 今までと真反対の治療法

阪神医慮生協 東山敏子

おもしろいテーマだと思って初めて参加しました。湿潤療法はうるおい療法ともいわれ、体が本来持っている力「自己治癒能力」を最大限に生かす治療法ですと聞いて、その通りと納得しました。

家庭でのすり傷や切り傷はどれもが経験しています。傷は様々な原因によってできる皮膚の損傷で、治すためには、「化膿しないように消毒する」「じくじくするのでガーゼを当てる」のが今までの治療法でしたが、湿潤療法は「消毒しない」「乾かさな

い」「水道水でよく洗う」を3原則として行う治療法で、今までとは全く反対。ビックリしました。

薬局で安く売っている白色ワセリンが保湿作用があり、傷を乾燥から守り、痛みを和らげることも知りました。また、ガーゼの代わりに食品用ラップを当て、治るまでは基本的に毎日取り換える、その際に消毒液でなく、水道水で十分に洗い流すことも。

私はこの治療法は、『家庭でできる自然療法』の著者、東城百合子先生の考え方に似ていると感じて帰ってきました。ありがとうございます。

### 救急箱の中身見直す参考に

JAMヤンマー尼崎労組 箕浦雅之

今回の講演では、スライドなどで今までの療法と湿潤療法との差を、非常にわかりやすく解説いただきました。知識を深める事ができました。また、会社に対して救急箱に、「創傷被覆材」や湿潤療法用の絆創膏を常備してはどうか、中身を見直す意見提起の参考になりました。

講師のお話で「今ある常識がすべて正しいわけではない。だから、将来常識の間違いに気づくためにまず常識を学び理解しなければならぬ」といつ頃どの程度治るかを正直に伝え、患者との信頼関係を築くこと

が大事である——この二つは、組合活動にも繋がるものがあり共感を覚ええました。今後もこのような講演会で学んだ知識をもって会社に意見提起しながら、安全と安心の職場作りにも貢献していきます。

最後に、安藤先生の講義のデータが事務局にあればいただきたいので、ご検討よろしくお願ひします。

### 結構売ってるシートとワセリン

JAM東亜バルフエンジニアリング支部 中野吉人

安藤先生のお話を聞くことができ、大変参考になりました。これまでに消毒—ガーゼの治療が良いものとして私も思っていました。昔やけどをしてガーゼをはがすつらさを覚えていたので余計に感銘を受けました。

何といっても湿潤療法は、①早く治る ②傷跡が残りにくい というのが一番魅力的だと思います。先日ドラッグストアにて湿潤療法向けシートの販売状況を興味本位で見に行きました。結構売っていてビックリしました。近いうちに必ず購入し、我が家の薬箱にもシートとワセリンは常備しておくことにいたします。さっそく次回の代議委員会で組合員に周知する予定です。有意義な講演会の企画ありがとうございます。

# アスベスト被害ホットラインに参加して

## 尼崎労働者安全衛生センター 末吉幸雄

二月十七日、十八日の二日間、

関西労働者安全センターに行き、アスベスト被害ホットラインの電話相談活動に参加しました。十七日の新聞に「全国の労働基準監督署がアスベスト健康被害として労災認定した事業所の一覧表」が掲載されました。

アスベスト粉じんによる中皮腫や肺がんなどの健康被害は体内に吸い込んでから病気が表面化するまで潜伏期間が二〇年、三〇年以上と長く、これまでのアスベスト使用量輸入から推定した被害もこれからも続くと考えられています。健康被害は労働者として直接アスベストを扱った者だけでなく、クボタのように大量にアスベストを使用していた会社の周辺の住民にも健康被害が出ます。被害の裾野が広いだけに「これまで

にアスベスト粉じんを吸った覚えがない」という人にも

広く注意喚起することが重要です。

厚生労働省（行政）は「アスベスト健康被害として労災認定した事業所の一覧表」の公表をしなくなった時期がありますが、全国安全センターが強く訴え、この再開を迫り、ホットラインの電話相談となりました。

### 西日本の相談を担当

全国センターは東京、神奈川、名古屋、関西で無料電話を設置しました。関西センターの担当は西日本です。ベルが鳴り受話器を取ると、コールセンターから「発信元は大阪です」と案内し、相談相手との会話が始まります。朝九時開始から電話が入り、一時に少し暇になり、二時のテレビの報道がされるとベルが鳴ります。電話相談は短いのは三分

### 田辺さんをしのぶ集い

国労新幹線保線所分会からの古い活動家で、ずっと関西労職研活動を支えてきてくれた田辺俊明さんをしのぶ集いが、昨年二月二日の京都で持たれました。一四年一月に六八才で亡くなって日が経ちましたが、森村さんや、上田さんなど国労関係や尼崎からも四人が出席しました。



後ろ、左が田辺敏明さんです

ですが、長いのは三〇分のもあります。発信元は主に工業地帯（関西、瀬戸内、九州）ですが、山陰や高知、南九州からもあります。被害者の地域が広いのはアスベスト被害の潜伏期間が長いのも要因で、就職や出稼ぎで都会に出ていた労働者が多かったからです。

被害相談は「工場の断熱材で扱った」「建設の断熱材・吸音材で扱った」が多いのですが、「自動車整備工だった」「造船所の関連（運搬や電気工事、作業衣の洗濯）」もあります。アスベスト規制が始まる前まで、自動車や電車などのブレーキとクラッチにはアスベストが使われていました。

「田園地帯に住んでいるが、隣が建設業者でビルや住宅の解体で出た廃材をビニールでくるみ、うちの庭に隣接するコンテナに放置している。肺がんにならないか」との相談もありました。国内に輸入されたアスベストの九割が今なお住宅建材、ビルの建材として日本中のいたるところに分散されています。吹き付けアスベスト以外は「建材として固定化され、粉じんを発生させないので、現状が維持される間は健康被害はない」と考えられています。住宅やビルの解体と共にアスベストの粉じんが飛び散ると「アスベストを吸った覚えのない」住民にも被害は拡散されます。大気汚染防止法を住んでいる自治体に誠実に履行させる・ことがこれからのアスベスト運動の

# 365日24時間死ぬまで働け ■休日研修

「ワタミには、365日24時間、死ぬまで働け」という言葉がある。「そうしろ」と言うのではない。そんな気持ちで、働いてほしいということだ。渡辺美樹氏の著書の言葉だ。裁判で明らかになった、ワタミの真意はすさまじい。当時、森さんら新入社員が強いられた現実だ。店の営業は深夜に及ぶ。終電以降もタクシーは使えないため、始末まで店内で待機した。仕事を終えて深夜帰宅した同じ日

に、東京の本社で早朝研修があったこともある。研修では、渡辺氏の言葉をまどめる理念集を丸暗記。満点をとるまでテストが繰り返された。休日にはボランティア名目の研修。渡辺氏の著作を読んで感想を書く課題もあった。これも勤務時間外にこなさないとはいけなかった。当初、ワタミは「始末まで拘束していたわけではない」「研修は任意」「課題は業務ではない」と反論していたが、和解ですべて労働時間

だと認めた。裁判では、労働基準監督署がワタミに出した是正勧告の詳細も明らかになった。

「就業規則を労基署に届けていない」「法定の休憩時間を与えていない」「残業代を支払っていない」「健康診断を受けさせていない」「上場企業ワタミが指摘された違反は、労務管理の基本ばかりだ。」（編集委員・沢路毅彦）

→二〇一五・一一・一九 朝日

## 自腹弁償 不当と提訴

2015.7.31 神戸

名古屋地裁

「引越社」社員ら作業中の物品破損を自腹弁償させられたと提訴した。また給料を業續不振を理由に一方的に減額された。原告側は、過失のない労働者が注意を払う中での起きた損害は会社として全額賠償を求め、引越社とグループ会社は、社員と元社員13人、スクで、社員に支払わなければならないと主張。約7千万円の支払いを求め名古屋地裁に提訴する。同社は「アリスさんマークの引越社」のテレビCMで知られる。訴状によると、同社は引越して発生した家具などの破損や、交通事故に対する賠償金を「弁済金」として作



## 問題企業

ブラック企業批判で追いつめられたワタミ（創業者 渡部美樹現自民党参院議員）。昨年12月、2008年に社宅近くで自死した娘さんの両親に1億3000万円超を支払うと、東京地裁で和解しました。娘さん、森美菜さん（26歳）は居酒屋「和民」に入社。わずか2カ月で過労自死、月141時間の残業を強いられたということです。今年のブラック企業大賞はセブンイレブン・ジャパンでしたが、「アリスさんマークの引越社（関東）」もありえないで賞を受賞しました。

課題となっています。電話相談には「胸膜プラークと診断されたが、これを中皮腫・肺がん」と誤解するケースや「アスベストを放置してきた国の責任を徹底追及せよ」という叱咤激励もありました。とんちんかん電話の応答もした責任もありませんが「アスベスト被害の

深刻さを日本に、世界に発信した（クボタショック一〇年の）尼崎安全センターの役割は一〇分の程度は果たせたのでは」という実感もありました。